資料Ⅷ　パブリックコメント

当委員会では、平成 21 年３月に提出した「中間のまとめ」に対してパブリックコメント（市民意見）の募集を４月 15 日から５月 15 日の期間に行った。下記の４つのテーマについての意見を募ったが、それ以外の意見についても広く受け付けた。

①委員会の検討の在り方
②新施設の在り方
③新施設の整備用地の選定について、どのように考えるべきであるか
④新施設がまちづくりの中で、どのような役割を果たすべきか

また、現クリーンセンター周辺地区３箇所においてパブリックコメント募集期間に行ったコミセン勉強会での発言や、委員会に提出された傍聴者意見などもパブリックコメントとして取り扱った。

これらの意見は最終報告書の作成に当たって参考とし、必要と思われることについては積極的に反映した。下記に、パブリックコメントとして受けた意見を項目ごとにまとめたものを添付する。この最終報告書と共にこれらの意見を深く受け止め、今後の方針を検討するよう市に求めたい。

【パブリックコメント件数】
・　（周辺３地域）コミセン勉強会出席者数　53 人
・　パブリックコメント提出数　25 件

パブリックコメント意見一覧表　①

①委員会の検討の在り方	
	意　見　・　質　問
	■　こういう土地があるから、こういう物を造れるというのが基本であり、最初に「整備用地」を検討すべき。 ■　若者や吉祥寺がごみ減量の課題であるなら、もっと重点的に研究し、対策して欲しい。 ■　市民参加と言っても 10 名の市民で「ごみ」という大きな問題にどう答申しようというのか。 ■　委員会の答申では、整備用地がどこであるか確定するのか。 ■　全市民の問題としているのは良いのだが、具体的にどのように全市的な問題意識を広めていくのか。 ■　運営協議会に全市的な参加の形を模索するのは賛成だが、日常的な部分での運営については周辺団体からの選出として、全般的なことについて市内全域から募るのはどうか。また、全般的なことは広報的な意味を強く有するため、市役所の広報課と子ども（児童、生徒、学生）を入れるべき。 ■　押し付けがましい印象を与えないようにした方が良い。

■　広域化の問題や、非焼却などを含めた次世代の事を考えるのであれば、もっと時間をかけて検討すべきである。

■　市や市民にごみ減量を求めつつ、国の行政はごみを増やすような動きをしている。平成 25 年に三鷹が焼却施設を造るので、あと 15 年もたせて三鷹の様子を見てから考えてはどうか。

■　目新しい処理技術に惑わされることなく、ごみ減量と市民との協働に基本を置いた現在の方針を継続して欲しい

■　申し訳程度の延命と建て替えのコスト比較のみでは納得できない。検討内容の全情報開示を求める。

■　建設に伴う主要な課題と解決の方向性が示されたことは適切で、今後はこれを基にハード・ソフト両面を総合的に、安全で効率的なシステム計画をつくる組織への引継ぎが必要。

②新施設の在り方

意　見　・　質　問

■　新しいクリーンセンターでは環境を重視するとあるが、排ガス中の CO2 について気になる。市報にも出てこないが、これから CO2 を削減するのであれば、現状を知り市民に知らせるべきではないか。また、プラスチック焼却が CO2 発生にどう影響しているか。排ガスの掲示板に CO2 の排出量も出して欲しい。

■　煙突が近くにあると不快。夜間に臭いがする。人体への影響が心配。どうして 24 年間「安全・安心」で、公害が無いと言えるのか。資料にある他の施設と比べると、武蔵野市の現状は悪い。明らかに人体への影響がある。他の地域と比べて循環器系の疾患が多いとか、ごみ収集車が多く通ることで交通事故が多いとか、不利益があるのではないか。こういった不利益がないという何らかの検証はしたのか。

■　委員会として人体に影響は無いと思っているのか、微量と考えているのか。土壌ダイオキシンのデータについて、こうちゃん公園より中央公園の方が検出量が高いが、これは意味のあるデータだと思う。

■　現在運営協議会に含まれていない地域にもっと関われるようにして欲しい。

■　運営協議会などに蓄積された莫大なデータを、新施設へ引き継ぐ内容、改善する内容などに整理した上で、活用できるような仕組みを作ることが大切。

■　環境健康診断の範囲は地域ではなく、距離で考えてもいいのでは。

■　今後 5,000 人の人口増が見込まれる中で、ごみ減量をベースに現行の３炉 195ｔから２炉 120ｔにすると言うが、３炉を建設するという検討はしなかったのか。１炉あたり 40ｔだと焼却効果が落ちるというのは、どのように研究したのか。現行の２ヶ月の休炉期間を無くした上で 1,000℃で燃やし続けて大丈夫なのか。

■　進歩した技術を導入できるよう、プラントのメンテナンス・更新が円滑に進められるような余裕のある施設とすべき。

■　炉の方式と規模は妥当。資源物ストックヤードの設置は物流の効率化に良いので、瀬戸物リサイクルなど小規模用の 500ｇフレコンパック置き場があると良い。

- バイオマス資源化施設などについて、本格的なプラントは作らずパイロット事業を行うこととなっているが、システムの検討は必要と思われる。
- バイオマスのパイロット事業については次世代の施設の足がかりとなる。将来バイオマスプラントの建設について、また広域協力など、多摩地域の状況を見ながら武蔵野市が臨機応変に対応できる施設の在り方を検討しておくべき。
- 最終処分場やエコセメント事業について、いずれ時期が来れば見直しが図られるため、柔軟に対応できるよう常に準備しておくことが大切。
- 新ごみ処理技術について、炭素化施設の見学などを行い検討すべき。
- 市全体のごみ問題を捉え、焼却・非焼却に整理して考え直すべき。
- 市全体でごみの有価物化へと取り組むべき
- 施設を出来るだけコンパクトにして、一体化が必要不可欠なものを除いて分散化するべき。
- 焼却施設とその付属施設を数箇所に分散配置することにより、その地域の住民と行政が協議しながら施設を中心としたまちづくりをすすめ、ごみ減量への意識を高めるべき。
- 発電は行わず、コンパクトな施設にすべき。
- 地球温暖化対策のため、新施設にはどのような機能ができるか具体的に知りたい。
- 機種別の長所・短所・費用の比較表、今後かかる費用の予測および予想されるランニングコストを提示すべき。
- 施設の建て替えそのものが巨大な廃棄物を伴うという意味からも、節税の面からも、超寿命化は重要である。
- 焼却炉の耐用年数が 30 年とすると、３炉を２炉で運転しているので 45 年が耐用年数であり、2029 年まで利用でき、その先が延命となるはず。
- クリーンセンターの近くに住んでいることが、ステータスとなるような付加価値をたくさん持っている施設にするべき。
- 公園は付加価値になると思えない。
- 温浴施設・農産物直売所・フリマなどは強い「誘引力」になる。福祉・健康増進に併せてごみ・防災・市政全般について勉強してもらえるものにしてはどうか。音楽や朗読・老若サークルの演奏などとセットにしては。

③新施設の整備用地選定について、どのように考えるべきであるか

意　見　・　質　問

- 建設時に現施設敷地内東側に建て替え用地を確保しているのだから、そこで建て替えれば良い。
- 新施設には「建て替え用地の確保」といった表現は避けること。
- 市役所で収集車の洗車をするなどしているので、市役所に面している現施設敷地内東側に建設するべき。市役所北エリアという設定には抵抗がある。
- 市役所北エリアを一体的にという事になると、30～50 年後にまた同じ問題が起こるのでは。

パブリックコメント意見一覧表　④

	■　各地でコミセン勉強会をやっているのは評価するが、地元地域に先にしっかり説明をするべき。 ■　現施設のある地域に建設をすると、60 年・100 年もあることになりかねない。他の場所に建設して欲しい。 ■　「ここありき」ではなく、候補地を５箇所くらい出して欲しい。井の頭公園の北側や北町三丁目に広い駐車場がある。検討する必要はある。 ■　まず現クリーンセンター敷地では建て替えを行わないという方向で始めて欲しい。全市民の間で温度差がある。５箇所くらい他の候補地を出すと、その周りの人が関心を持つ。そして、コスト・メリット・デメリットの検討をすると、委員会の考える全市的な取り組みになる。 ■　クリーンセンターの在り方をより長期的に捉えて、次の施設の更新時期も視野に入れ、その間の減量化の推進や技術革新への期待、候補地のまちづくり機運の高まりへの期待を含めて検討する中で、機能の分散配置やより望ましい場所への移転といった可能性を示しておくことが重要であり、そのような観点からも候補地を挙げるべき。 ■　候補地としては、境公園など未整備の都市計画施設が考えられる。 ■　新たに境地区を提案していくことで委員会が動いているが、冷静に予算と将来的にそこから生み出される利益についても比較していくべき。 ■　選択の問題で、必要なら出費するということであり、「あらゆるコストに関係なく～」という表現はいかがなものかと思う。 ■　周辺地域でさえ建て替えについて伝わっておらず、関心も持たれていない。ごみの分別や減量についても関心を持たせる動機付けが弱い。クリーンセンターが身近に来るとなれば関心は高まる。だから、用地は決定せずもっと検討を行うべき。 ■　整備用地の選定を１年弱の委員会で行うというのは、あまりに早すぎるのではないかと懸念。 ■　身近な問題にならないと、自分のこととして考えない。クリーンセンターが近くに出来ることとなって初めてごみの問題を考えるようになり、ごみの集団回収が始まり、減量の意識も高まり、それが次第に市民の間で広がっていった。これは、クリーンセンターができて良かった点なのだが、施設を一箇所に集中するのではなく、ストックヤードなどを分散してみてはどうか。 ■　「どこに造っても良い施設」を議論しているが、頭では現施設敷地内になっているのではないか。他にもあるかも知れないというが、他の候補地の話は出ない。 ■　３箇所の用地があり、順番に 30 年毎に動かせるとすれば、60～70 年に一回の持ち回りということになり、ごみ問題への関心を広げ、まちづくりへの投資を分散できる。 ■　現施設建設の合意の調印時に約束されたこと、附帯条件として周辺住民の要望を充分に汲むことについて、果たして誠意を持って対応されてきたかどうか検証すべき。
④新施設がまちづくりの中で、どのような役割を果たすべきか	
	意　見　・　質　問
	■　具体的なまちづくりの例を出して欲しい。

パブリックコメント意見一覧表　⑤

■　今の所に建て直すのであれば、
⇒緑町コミセンを大きく建て直すか、よりよい施設にして欲しい。
⇒ムーバスのルートを通して欲しい
⇒ムーバスをのルートを通して欲しい
⇒関東バスを NTT の裏門や団地の中を通るなどして八幡町の方まで通るルートに広げて欲しい
⇒タクシーの待車スペース及びタクシー乗り場を作って欲しい。

■　現クリーンセンター敷地内で建て替えるのであろうと無かろうと、現施設は解体するのであるので、その際に通研との道路を広げ、歩道・自転車道を作り、道路を含めたまちづくりを周辺住民を含めた議論で行って欲しい。

■　複数の候補地を挙げて、それぞれ新クリーンセンターを整備した場合、整備しない場合のまちづくりについて検証すべき。

■　「まちづくり」は周辺住民と市が行うべきであり、現委員会にやって欲しくない。

■　「まちづくり」は場所が決まってのこと。まちづくりにおいては、市民参加の在り方を見直して欲しい。

■　「まちづくり」は新施設が出来ることを前提としなければ検討できないのではなく、新施設ができる場合もできない場合も含めて、どのようなまちが望ましいかを検討すべき。それは、他の候補地についても同様。

■　クリーンセンターに関心を持ってもらうには外に開く、魅力ある施設にしていくことが大切であり、「地域に開かれた施設として展開・まちづくりの中核を担う」という考え方に賛成。

■　ものづくりや様々な体験ができる場を作り、楽しく学び、仲間づくりができるような参加型を重視した施設にして欲しい。

■　京都造形芸術大学の「触れる地球儀」などのような、魅力あるものを是非置いてほしい。

■　視覚中心の展示ではなく五感全般に関わる体験コーナーの設置が望ましい。

■　ビオトープをつくる時に関心のある子供たちにも入ってもらって調査、研究、企画まで最初から参加させ、共につくることによって愛着が沸くようにするなど、様々な分野を市民参加で進めてはどうか。

⑤その他

意　見　・　質　問
■　今のままなら問題はない。公害が出ないようにしてきたのは良かった。ダイオキシンの問題は建設時からあったが、湿式だから大丈夫と言われていた。しかし、10 年前にダイオキシン対策として大工事を行った。それだけお金をかけたのだから、さらに 10 年くらいもたせることは出来ないのか。もし延命できないのなら、周辺地域にその事をもっと丁寧に説明して欲しい。 ■　周辺住民に固定資産税・住民税の軽減、医療費の補助、市のスポーツ施設への優待などを図るべき。

	■　３Ｒ化運動を強化して省エネルギー化した新施設づくりに一層関心を持って、良いことは周りに声掛け広めたい。 ■　ごみの高質化について、現状の改善について具体策が無い。低湿化を目指すべき。 ■　市民意見反映のプロセスを丁寧に見せていくことが重要。 ■　子供の環境教育を充実させ、環境にやさしい暮らし方が当たり前となるように。 ■　これまで平和に思ってきたのは、市はちゃんとやってくれるのだろうと思っている。運営協議会の役割も、市民の大体の人は知らない。小学校４年生の施設見学などで、市や運営協議会がこれだけやってきたという事を伝えていかなければならない。 ■　都外自治体の施設例があれば、紹介して欲しい。 ■　施設周辺の方々に感謝を表する署名簿を捧呈するような、全市民的な運動を行っては。 ■　収集の民間委託の様子はどうなっているのか知りたい。 （広報・全市的な取り組みについて） ■　今回の勉強会は呼びかけが足りなかった。地域住民にもっと呼びかけるべきである。 ■　勉強会への参加者が少ない。広報不足ではないか。行政が市民に、市民が行政に何を求めているのか。 ■　建て替えについての具体的な勉強会を地域でもっと頻繁に行って欲しい。 ■　ごみ減量を市民にお願いする以上、なぜ建て替えが必要で、新施設がどのような役割を果たすのか、なぜ、ごみ減量をしなければならないのかを伝えていかなければならないのでは。 ■　建て替えを機に、ごみの減量、そして２度と爆発事故が起きないように分別の徹底、ルールを守る等への市民の協力を望む。 ■　クリーンセンターがこの場所にあると知らない人がほとんど。名前は知っていても、騒音・臭いなどが無いので「ごみ焼却施設」という意識は無い。自分たちに直接被害が無い限り、関心を持たないのが一般市民の感覚。また、ごみの問題について無関心であることが要因。広報をいくら頑張っても、そう効果のあるものではない。 ■　ここではかなりまめに広報がされている。嫌がる人もいるが、結局そんなに迷惑ではなく、仮住まいの人も多いため、関心が薄いのかと感じた。 ■　PR の方法、広報の仕方を逆にポイントに絞って、確実な参加者からどう口コミで広がるかが大切。この問題のスピーカーを増やす。 ■　大学のゼミや講義でクリーンセンター建て替えを取り上げてもらうことも、一つの市民参加の方法ではないか。 ■　一人のごみ量を伝えていく場合、リサイクルで作った炭を配布してはどうか。 ■　団地としては、たくさん広報を行っていて、今回もかなり周知した。数打てば当たる的な広報ではなく、興味を持つ内容にしなければならない。「ごみ減量協議会」や「レジ袋削減会議」の活動をクリーンセンターの建て替えにつなげて、有機的に広報できないか。 ■　市の広報に頼るだけではなく、各町会の広報などに、目に付くように書くべきでは。 ■　現状でのコミセン勉強会は市民参加を行政が利用するものとしか見えず、即刻停止す

	べき。 ■　埋めていた不燃物⇒ボイラーの能力アップ⇒ダイオキシンを出さない可燃ごみとして燃やす⇒エコセメントとして利用（エコセメントは不足）をアピールして欲しい。 ■　パブリックコメントの見せ方を分かりやすくする方法を構築しなければもったいない。 ■　ごみ減量を前提とした施設の建て替えについて、自分のこととして分かりやすく考えられるようごみ総合対策課と連携し、市民参加への動機づけを分かりやすくすることが大切。 ■　単発の広報では伝えきれないことがたくさんあり、情報も日々変わってくる。次につなげ、検討の輪を発展させていくために、周知計画は計画をたてて継続的に行うことが必要。 （ごみ減量・資源化について） ■　都内には多くのネットワークやＮＰＯがあるため、職員には市外に出てごみ減量についてなど研修をしてもらいたい。 ■　「生ごみ処理機搭載回収車」の導入、剪定枝の全量資源化など、是非実現して欲しい。 ■　マイ箸やリユースカップを推進して欲しい。 ■　市民一人ひとりのごみ減量意識が第一だが、市全体でごみの有価物化へと取り組むべき ■　ごみ減量は啓発活動よりむしろ、誰もが自然にごみ減量せざるを得なくなるようなしかけ、ルールづくりが大切。 ■　「チャレンジ 700ｇ」の 700ｇは分かりづらい。それよりは、「今のごみをさらに減らそう」で良いのでは。 ■　減量目標を確定し、目標達成への道筋を示すべき。 ■　洞爺湖サミットの日本宣言に対応すれば、50%のごみ減量計画が必要。 ■　製造元からのごみを出さない合意づくりへ、都や国へ働きかけるべき。 ■　減量委員会任せではなく、積極的に連携して早くごみ減量に着手するべき。 ■　武蔵野市は、もっと本腰を入れてごみ減量に取り組まなければならない。個人の努力で全て解決することはできず、啓発だけでは限度があり、損得などで経済誘導を行う仕組みが大事である。 ■　過剰包装や効率のみを重視するこれまでのシステムを改めて、よりエコロジカルな方法や、過剰包装は悪という意識を全市民⇒国民が共有できるような地道な努力が必要。 ■　ごみの減量についての議論が多すぎる、他のポジションに任せるべきでは。 ■　平成 29 年度の紙類の算定には、きれいな分別できる紙類は入っていないのだろうか。紙類は一番減量しやすいものなので、広報によってもっと少なくできるのでは。